

○ 恵庭下水終末処理場（恵庭市）は、下水汚泥と地域バイオマス（生ごみ、し尿・浄化槽汚泥）を共に処理するバイオマス事業を展開。バイオガスの有効活用を図るとともに、発生する汚泥については、民間再資源化施設において肥料化、販売。

■国内資源の種類

■肥料の種類・肥料名称

■取組の経緯・内容・成果（見込み）

- ・ 下水終末処理場下水汚泥

・ 生ごみ

・ し尿
- ・ 汚泥肥料

■作物

■主成分の含有量（％）・特徴等

・ 野菜

・ 稲

・ たまねぎ

・ 園芸作物 等

※一例		N	P	K	C/N比
下水汚泥入り肥料	A社	5.7	4.0	0.24	4.2
	B社	4.3	7.1	0.64	4.5
	C社	2.5	2.9	0.54	11

取組の経緯

- ・ 恵庭市では、環境負荷低減やごみの適正処理等の喫緊の課題克服に向け、従来以上にごみの減量化への取組が必要となった。
- ・ 下水処理施設、生ごみ・し尿処理施設そしてごみ焼却施設の一体的な運営による循環型社会形成を目指したバイオマス事業を展開。事業推進に向け、ごみ分別方法の変更について市民説明会を100回以上にわたり実施。

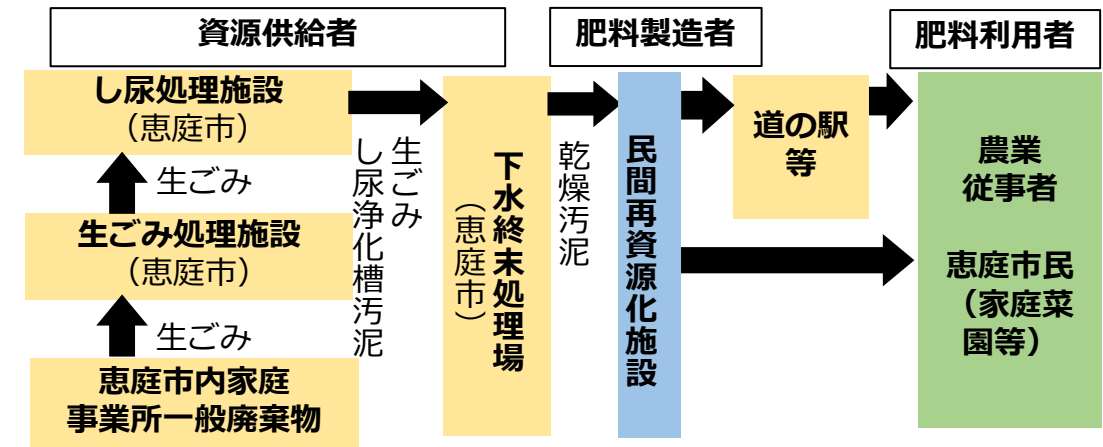
取組の内容

- ・ 下水汚泥とし尿浄化槽汚泥に生ごみを混ぜ合わせるによりバイオガス発生量を大幅に増大。そのバイオガスを発電事業者へ売却。
- ・ 可燃ごみ焼却時に発生する熱エネルギーを利用して汚泥を含水率40%まで乾燥。
- ・ 乾燥汚泥の処理については、複数の外部事業者へを委託。現在は乾燥汚泥の約7割が外部事業者により肥料原料として利用。

成果（見込み）

- ・ 市内の生ごみ分別収集において、非常に高い分別率（家庭系：90%）を維持。
- ・ 下水事業の市民還元の取組として、道の駅において下水汚泥入り肥料を期間限定で販売し、好評を博している。

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■今後の課題・取組

・ 恵庭市内から排出される生ごみが減少し、受け入れ量が減少している。

株式会社日立製作所
ごみ焼却場の焼却で乾燥した汚泥を乾燥機で脱水

脱水ケーキ

乾燥汚泥

・ 発生汚泥の肥料化を継続させるため、肥料原料としての妥当性や安全性を下水道管理者として認識することが必要。